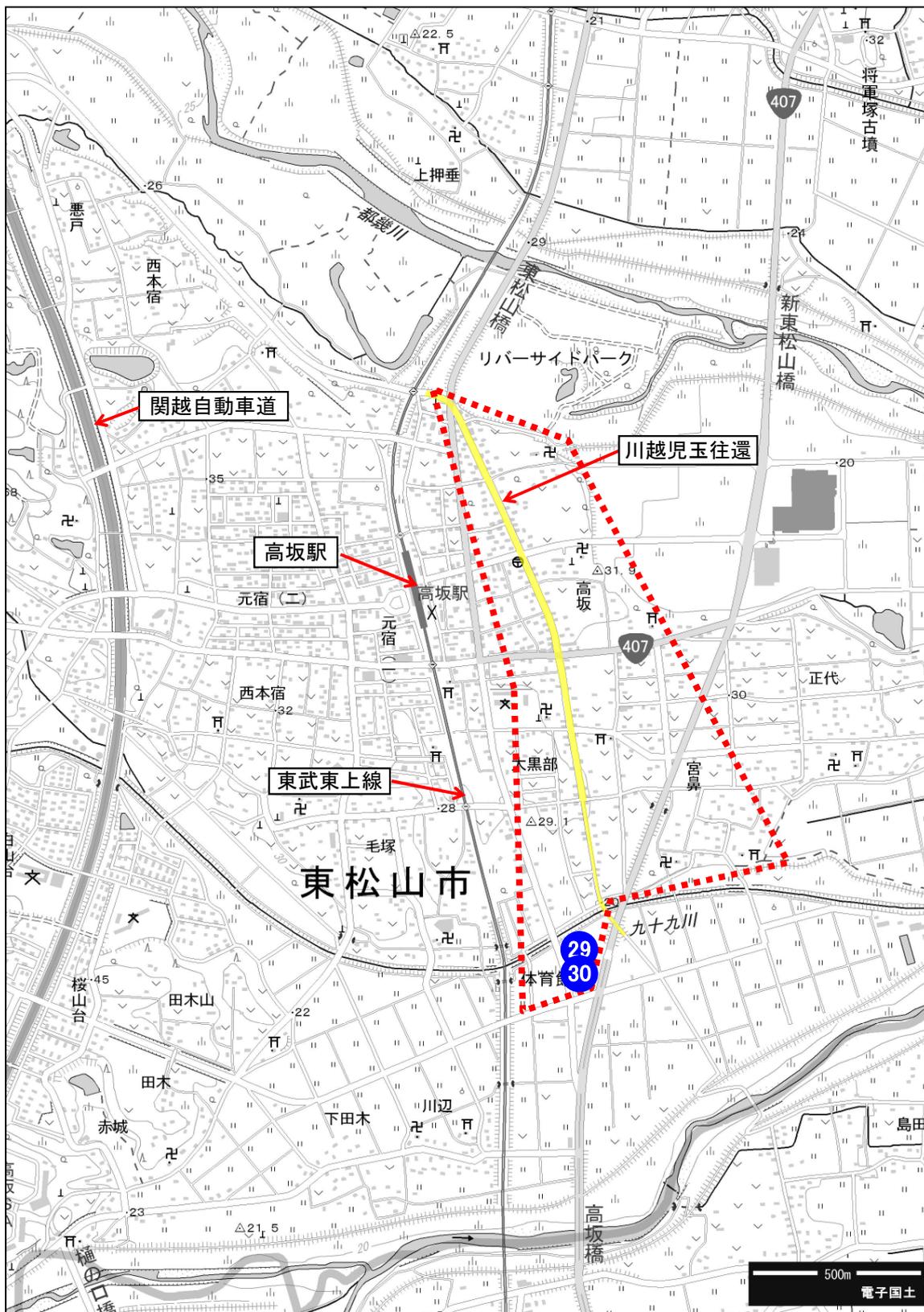


# 高坂



案内図

 調査範囲

# 高坂



配置図

凡例



史跡・寺社等



その他の建造物



通り・広場・樹木他

## 高坂



高坂は岩殿丘陵とそれに続く高坂台地の上に位置する。

川越・児玉往還は川越・高坂・菅谷・鉢形・上州といった軍事上の拠点をつなぐ戦国時代の重要な街道であった。江戸末期から明治にかけて人馬の往来が多く、交通上の要衝であった高坂宿は賑わったといわれている。現在も古い民家や土蔵が多く見られる。

(写真は東松山市高坂付近)

1

住宅



生垣と越屋根のある民家。

2

住宅



越屋根が三基設置された珍しい構造の民家である。

2

蔵



漆喰が塗られていない土壁のままのシンプルな蔵。

3

蔵



白漆喰の蔵で珍しく土庇が付いた蔵である。

4

街道の道標



八王子という文字がかろうじて読み取れる道標である。

5

-1 高済寺



高済寺は、秩父氏の流れを組む高坂氏の流れを組む高坂氏館跡とされる寺である。江戸初期には加賀爪氏が陣屋を置いたとされる。

<p>5 -2 高済寺</p>	<p>6 街道沿道</p>	<p>7 住宅</p>
		
<p>屋根の棟まわりの納まり。 漆喰の白が遠くからも目立つ。</p>	<p>川越児玉往還の沿道である。旧家 や蔵が散見できる素朴な街道景観 である。</p>	<p>2階部分の漆喰壁や木部を金属板 で覆っているが下地にあわせ叩いて 仕上げており美しい。</p>
<p>8 住宅</p>	<p>9 -1 板塀のある通り</p>	<p>9 -2 蔵</p>
		
<p>街道沿いに高い塀等がなく庭木が 見渡せる。手入れの行き届いた樹 木が美しい。</p>	<p>板塀は高からず街道に面しており、 屋敷林とともに美しい景観を形成し ている。</p>	<p>漆喰の蔵と門の構成が美しい景観 である。</p>
<p>10 -1 路地</p>	<p>10 -2 路地</p>	<p>10 -3 路地</p>
		
<p>敷地の間には細い路地が見られ、 手入れの行き届いた垣根が落ち着いた 景観を造っている。</p>	<p>路地の奥には農家があり、庭木の 紅梅が季節の移り変わりを伝えて くれる。</p>	<p>路地の奥の農家にある桜と白梅が 見事なシンボルツリーとなっている。</p>

10 -4 農家の白梅	10 -5 農家の紅梅	11 住宅
		
<p>農家の枝ぶりの立派な白梅。</p>	<p>街道からも見事さが認識できる見事な紅梅である。</p>	<p>漆喰と板壁のコントラストが目を引き、手入れの行き届いた庭木とともに美しい景観を造っている民家。</p>
12 住宅	13 川越児玉往還	14 東光院の参道
		
<p>写真7と同様に、2階部分の漆喰壁や木部を特徴ある金属板で仕上げている民家。</p>	<p>かつて賑わった街道も、現在は素朴な道路景観となっている。</p>	<p>東光院の参道はシンプルで山門はなく、門柱が立つのみである。参道の向こうの寺院の大屋根がランドマークになっている。</p>
15 東光院の本堂	16 門	17 -1 住宅
		
<p>高済寺と同様に棟の漆喰が目引き寺院である。</p>	<p>くぐり門と大石が印象的な民家で和の風情を醸し出している。</p>	<p>均整の取れた外観を持つ農家。</p>

17 -2 住宅	18 民家の祠	19 高坂神社
		
<p>こういった建物が連続して残っていれば街道の景観もより印象的であつたらう。</p>	<p>街道沿いのとある民家の敷地内に祀られている祠である。</p>	<p>高坂の天王さまとして地元で親しまれ、毎年8月第4日曜日にはお祭りが開催されている。</p>
20 街道沿いのお地藏様	21 街道沿いの竹林	22 店舗
		
<p>道標とともに祀られているお地藏様である。道標の文字は確認が難しいほどに風化している。</p>	<p>街道沿いに残る竹林。</p>	<p>縦格子の門扉が印象的な古い造りの商店である。敷地奥には土蔵の蔵も見られる。</p>
23 住宅	24 住宅	25 住宅
		
<p>手入れの行き届いた庭木とともに黒板塀が印象的な民家である。</p>	<p>門と庭木があいまって和の風情を醸し出している。</p>	<p>敷地の奥の漆喰の蔵が通りからも目を引くものがある。</p>

<p><b>26</b> 住宅</p>	<p><b>27</b> 通り</p>	<p><b>28</b> 庚申塔</p>
		
<p>敷地内に県指定の天然記念物であるアララギのある民家で、高台になっているためランドマークになる景観である。</p>	<p>高坂台地の南面の住宅地であり、新興住宅の中に古い旧家が見られる。</p>	<p>路傍にひっそりと祀られている供養塔と庚申塔である。</p>
<p><b>29</b> 消防署分署</p>	<p><b>30</b> 市民活動センター</p>	<p><b>31</b> -1 香林寺のアプローチ</p>
		
<p>RC造のどっしりしたイメージの消防庁舎。塔には火の見櫓でなくサイレンのスピーカがついている。</p>	<p>宇宙船のような外観。</p>	<p>香林寺は高台の南面になっており、本堂の屋根が見え隠れする景観が美しい。</p>
<p><b>31</b> -2 香林寺の本堂</p>	<p><b>31</b> -3 香林寺参道(階段)</p>	<p><b>32</b> -1 住宅</p>
		
<p>本堂の屋根は金属板であるが色彩寺院らしさを出している。窓ガラスの構成が印象的である。</p>	<p>本堂の周りは白梅等が植栽され、早春の彩が美しい景観を形成している。</p>	<p>長屋門造りの民家とレンガ積みの塀が印象的である。</p>

	<p><b>33</b> -1 八幡神社の大イチョウ</p> 	<p><b>33</b> -2 八幡神社から臨む農地</p> 
	<p>八幡神社ひある樹齡約700年の大イチョウである。</p>	<p>八幡神社は、南面の高台にあり低地にある農地を一望することができる。</p>
<p><b>34</b> シュロ林</p>	<p><b>35</b> 住宅</p>	<p><b>36</b> 蔵</p>
		
<p>農家の畑に植えられたシュロの林。ほとんどがシュロで覆われているのは珍しい風景である。</p>	<p>母屋は合掌造りの大屋根で覆われたひとときわ目を引く農家である。</p>	<p>大谷石を積んだシンプルな蔵である。</p>
<p><b>37</b> 住宅</p>	<p><b>38</b> 屋敷林のケヤキ</p>	
		
<p>柱と胴縁の縦軸がシンプルで美しい素朴な民家である。</p>	<p>見事なケヤキの大木がランドマークになっている屋敷林である。</p>	